



# ろうさい連携だより

2019.10

第31号

病院の理念

満足と納得が得られる医療の実践

- 地域医療支援病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 災害拠点病院
- 臨床研修指定病院
- 日本医療機能評価機構認定病院

## 基本方針

- 1 患者さんの安全と安心を第一に考える医療を提供します
- 2 患者さんの権利を尊重し、思いやりのある医療を実践します
- 3 科学的根拠に基づく質の高い医療を提供します
- 4 地域の方々と勤労者の健康管理を支援します

## 副院長就任のご挨拶

今年4月より、副院長に就任いたしました、肝臓内科部長の阿部直司です。平成5年(1993年)7月に、東北大学消化器内科(旧第3内科)から赴任し、昨年度は院長補佐を拝命しておりました。当院にはこれまで25年以上勤務しておりますが、病院の最大の危機は東日本大震災の時だったと思います。病院も被災し、工事を行いながら、より被害の大きかった沿岸部(石巻、気仙沼等)の患者さんも受け入れつつ、診療を続けました。今年は、5月から元号が令和となり、祝賀のため十連休となりました。病院としては、社会的影響を考慮し、2日間(4月30日、5月2日)通常業務を行いました。開業の先生方や患者さんのご不便を解消するために行いましたが、結果として連休による病院の入院患者数減少に対応ができませんでした。これは、大山前副院長から引き継いだ医療業務委員会で決定したことでした。



副院長 兼 肝臓科部長

阿部 直司  
(あべ なおし)

今後も、登録医の先生方と病院両方の利益になることを行いたいと考えております。このほか紹介患者さんで、担当科が決められない場合の振り分けルールも決まりつつあり、先生方に時間を取らせないよう努力をしております。ほかにも以前から複数の委員会を担当しており、多忙な毎日を過ごしております。この病院で仕事を始めたころは、日常の診療を普通にこなしていれば、病院経営は黒字になるのが当然という時代でしたが、病院を取り巻く環境は厳しいものとなっております。DPCの導入、7:1看護、平均在院日数短縮化、看護必要度導入など、めまぐるしく変わる制度に対応するのが忙しく、患者さんをじっくりみている時間がなくなったように感じています。看護単位の一時的縮小や地域包括ケア病棟の導入・充実など、徳村院長を中心に、体制作り而努力して参りました。令和という新しい時代も、これまで同様に努力を続けて参りますので、登録医の先生方、東北労災病院をどうぞよろしく願い致します。

## 目次

- p1-p3 特集 COPD 教室
- p4 地域医療連携センターから
- p5 東北労災病院外来診療担当表

## COPD教室今年で17回目を迎えます

東北労災病院呼吸器内科部長 副院長 三浦元彦

COPDは数ある病気の中で、相変わらず最も認知度の低い疾患の一つであり、一般人における認知度は、直近の調査で20%を切っています。そんな中我々は、多くの患者様にCOPDという病気を知ってもらうため、17年前からCOPD教室を開いてまいりました。COPDは、高血圧や糖尿病のように、数字で把握することがなかなかできません。また、その最も特徴的な症状である息切れが年のせいや運動不足のせいと勘違いされてしまい、だれも病気の症状だと思いません。まずはCOPDがどういう病気かを知ってもらうことが、今でも最重要課題です。教室では呼吸器内科医師からこれを説明させていただいております。

COPDの治療の3本柱は、薬物療法・運動療法・食事療法です。このため、多くの職種がCOPDの治療に関わることになります。薬物療法において、その主体は吸入剤です。しかし、吸入で劇的に症状が改善することが多くはないので、いかに毎日吸入剤を続けるというモチベーションを持ってもらうか、いかに正しく吸入してもらうか、薬剤師の技量が重要です。当院の薬剤師はこの点でまさにspecialistです。運動療法に関しては、当院理学療法士・作業療法士が担当しますが、当院では呼吸リハに20年近い経験をもっており、単なるトレーニングだけではなく、運動療法がなぜ大事かも含め日々指導をおこなっています。COPDにとって運動療法と並んで大切な栄養指導は、栄養管理士が普段の食事内容を把握したうえで修正すべき点を指導しています。最後に、日常生活全般の注意点に関しては、看護師が指導します。特に当院には呼吸療法認定看護師が数多く在籍しており、知識や経験を踏まえて、指導に当たっています。当院は普段の診療からチームでCOPD患者さんに接しており、普段の経験を教室に生かしています。

労災病院COPD教室はいろいろな角度からCOPDを学ぶことができますので、是非先生方の臨床にお役立っていただければと思います。なにとぞよろしく願いいたします。

## 看護師のCOPD患者への関わり

COPDは厚生労働省の人口動態調査で、日本人の死因の第10位となっていますが、ここ20年増加の一途をたどっていると言われていています。患者さんは、最後のときを迎える日まで、共にこの慢性疾患と生活していかなければなりません。私達はその苦しみを少しでも和らげるよう、チームとして関わりを持っています。年に一回、そのチームで開催しているのが「COPD教室」です。

COPD教室で私達看護師は、主にCOPDの症状と増悪についてと日常生活の注意点についてお話しています。まず症状ですが、咳嗽、喀痰、息切れ、呼吸困難があげられます。これらの症状を主訴に受診に来られる方がほとんどです。そして増悪の兆候である咳嗽の増強や喀痰の増加、発熱などについて知ってもらい、さらに増悪させる要因についても説明しています。

次に、COPD増悪を予防するための日常生活の注意点についてです。まず大切なことは、定期的な部屋の換気と清掃です。掃除は毎日しています、と患者さんが話していたとしても、実はエアコンであったり、ぬいぐるみであったりと落とし穴があるのです。そういった点に着目しながらお話しています。次に風邪の予防です。風邪をひいてしまうと、症状悪化つながります。そのために風邪予防対策として、一般的に行われているうがい・手洗い以外に予防接種についても呼びかけています。毎年のインフルエンザワクチン、5年に一度の肺炎球菌ワクチンを接種することで、増悪をおさえることができます。そして最後に禁煙です。COPDの最大の敵はたばこです。進行を遅らせるためにも禁煙指導は重要と考えています。当院では禁煙外来を開設しており、必要時は紹介しております。

以上のように、いかに自己管理を継続できるかがカギとなってきます。分かっているがなかなか実施できない患者さんが多くいる中、このCOPD教室に参加したことで、改めて自己の生活を振り返るきっかけとなっただけならと思っています。そして一つでも自己の目標を持っただけならと思っています。その目標に向かって、私達医療者は、チームで同じ方向を向いていきたいと思っています。

最後に、当院には慢性呼吸器疾患看護認定看護師が在籍しております。院内でもさまざまな病棟で、慢性呼吸器疾患患者ケアのアドバイスをしてくれています。何かありましたら、気軽にご相談ください。

(文責：病棟師長 柳沼 千枝)



## 薬剤の適正使用を目指して

COPD治療において薬物療法は非常に重要な役割を果たします。患者様が入院中に新たに薬剤が開始もしくは変更となる場合も多々あり、我々病院薬剤師は薬剤の用法用量をはじめ、必要性や副作用などの注意点を理解していただくことを一つの目標に服薬指導を行っております。また、COPDの薬物療法の中心である吸入薬に関しては、患者様が適切に吸入できるかどうか確認をするのはもちろんのこと、手技不良の場合は吸入手技獲得を目指した継続的な吸入指導や吸入力・手指筋力等を考慮し患者様個々に適した吸入デバイスの選択・提案なども行っております。

COPD教室では患者様やそのご家族に対して、薬剤個々の特徴や注意点に加え、なぜ薬物療法が必要なのか、なぜ薬剤を継続して使用しなければならないのかなどの内容を中心にスライドを用いて説明を行っております。特に吸入薬の説明に関しては、当院薬剤師が実践している吸入動画を交え、より詳細に内容をお伝えできるようにしております。また、薬物療法に関して患者様から直接質問を受け付ける時間を設け、吸入手技に自信がない患者様には吸入練習器を用いてその場で吸入手技の確認もしております。COPD教室に参加した患者様からは、「吸入手技が間違っていることが分かった」、「自己判断で薬を調節してはいけないことが分かった」などの声を多くいただき、薬剤の適正使用にも繋がっていると感じております。今後ともCOPD患者様の薬物療法をサポートしていきたいと考えております。

(文責：薬剤部 高松 謙・星野 祐太)

## COPD教室の中央検査部の参加状況

私たち中央検査部では、COPD教室に2名で参加しています。教室が始まる前や休憩の時間を使って、持ち運び可能な小型の電子スパイロメーターを2台使い、検査希望者に座位での努力肺活量(FVC)を計測しています。

フローボリューム曲線、1秒量(FEV<sub>1</sub>L)、1秒率(FEV<sub>1</sub>% G)、等を印刷してご本人に渡し、その結果を基に呼吸器内科の医師が分かりやすく解説をしています。

「正常です」と言われ、ホッとする方も多いのですが、初めて検査を受けられて閉塞性障害、拘束性障害、混合性障害の疑いがみられる方も少数いらっしゃいます。

この検査が、後日呼吸器内科を受診し、精査を受けるきっかけにもなっていると思います。

一人当たり5分程度の検査で、「すって すって〜〜」や「はいて〜〜」などの元気な声でCOPD教室を盛り上げています。

(文責：中央検査部 田中 厚)

## リハビリテーションでの関わり

中央リハビリテーション部では、理学療法士から「運動療法」、作業療法士から「息切れを減らす動作の工夫」についてそれぞれお話しさせていただいています。

理学療法士からは、運動療法の必要性や効果、運動療法の種類・方法・注意点について紹介しています。運動療法は、筋力・体力の向上、息苦しさの軽減、活動量が増加することで生存率が改善するなどの効果があり、薬物療法や酸素療法などと同様に重要です。運動の注意点としては、口すばめ呼吸を行い、呼吸に合わせてゆっくり行うこと、軽い負荷から行うことが重要です。また在宅酸素療法導入中の方などではパルスオキシメーターでSpO<sub>2</sub>の確認をすることも大切です。運動の種類としては、呼吸練習やストレッチ等のコンディショニング、レジスタンストレーニングなどの筋力トレーニング、ウォーキング等の持久力トレーニングがあり、COPD教室では座ってできる体操をその場で実際に体を動かしてもらいながら紹介しています。

作業療法士からは、日常動作ごとに動作方法と注意点についてお話しをしています。動作のポイントとして、運動療法と同様に口すばめ呼吸に合わせて、ゆっくりと息を吐きながら行い、息止めをしないことが重



要です。特に、呼吸が苦しいと感じやすい更衣動作・入浴動作・整容動作については、楽にできる動作や姿勢、使用する物品の工夫等を紹介しています。息苦しさを軽減させるための住宅改修や福祉用具の使用、物品の整頓や配置など、住環境整備の工夫も重要です。

身体活動レベルはCOPD全死亡の最大危険因子とされており、COPD患者様にとって「よく動くこと」がとても大切です。しかしながらCOPDの患者様は「息苦しい」「疲れる」といった理由から身体活動に対して消極的になってしまいます。そこで、自己効力感や達成感を感じながら積極的に活動していく環境づくりが必要です。肺の健康手帳など療養日誌を活用し、運動内容や歩数、日々の体調の変化を記録し、取り組みの内容に対する評価だけでなく、継続できている趣味や活動に対しての評価など医療関係者や家族からのフィードバックが大切になります。患者様の行動変容を導くため取り組んでいただけると幸いです。

(文責：理学療法士 中村 良太・谷藤 幸)

## COPDの食事について分かりやすく解説いたします

昨年のCOPD教室では、「COPDと栄養のはなし」と題し、発表させていただきました。COPDは、息が切れやすくなることで食欲が低下し、体重(筋肉)の減少をきたすという悪循環を繰り返すため、必要な栄養をしっかりとることが大切です。必要エネルギーは、自分の体格と活動量に見合った量をとりまします。痩せ型の方・体重が多めの方では食事療法が異なりますので、まずはご自分の体格を知ることが必要です。

痩せ型の方は、エネルギーやたんぱく質を効率よくとれるような食材の選択や調理の工夫がポイントとなります。エネルギーの高い油脂を用いたり、一度にたくさん食べられない場合には間食をとる等して栄養量を確保します。食欲のない方でも食べやすい内容としては、プリンやゼリー等、口当たりの良いさっぱりとした物が適しています。

体重が多めの方は、一度の食事量が多くなりすぎないように気を付け、バランス良く必要な栄養量がとれるよう、工夫が必要です。

また、コンビニ利用が多く、なかなか自炊できないという方の食事選びについては、おにぎりだけではなく、たんぱく源のゆで卵、ビタミン・ミネラル源としてサラダを組み合わせる等、上手に組み合わせてバランスよくとることが大切です。

患者様によって、病状や食べられる量、食の好みやライフスタイルは様々ですので、当日は栄養相談スペースにて、お一人おひとりに合わせた食事のご提案をさせていただきます。栄養量アップにも役立つ、栄養補助食品のサンプルやパンフレットを多数ご用意しておりますので、ぜひお試しいただき、日々の栄養補給に活用するきっかけとなれば幸いです。その他にも、少量でも栄養たっぷりとなる食事のアイデアや糖尿病を併せ持つ方にもおすすめの間食等について展示いたします。

今年のCOPD教室でも、皆様の治療のお役に立てられるよう取り組んで参りますので、ぜひ気軽にご参加下さい。

(文責：管理栄養士 友廣 美里)

## COPD教室 開催のご案内

日時：2019年12月7日(土) 13時～15時30分

場所：東北労災病院 1階待合ホール

準備の都合上、事前の申し込みが必要となります。

当院HPから申込用紙をダウンロードして頂くか

当院連携室にお電話でお問い合わせください。

電話022-275-1467



# 地域医療連携センターから

## 人事異動のお知らせ

採用	R1.7.1付	
耳鼻咽喉科	渡邊 健一	安全で確実な治療を心がけていきます。
耳鼻咽喉科	小澤 大樹	また、また、また戻って来ました。

採用	R1.9.1付	
腫瘍内科	森川 直人	つらい症状を和らげながら、最良の治療ができるよう努めます。

採用	R1.10.1付	
麻酔科	小島 晶子	安心して手術を受けられるようお力添えいたします。
脊椎外科	半田 恭一	患者さんに寄り添った診察を心がけております。

退職	R1.6.30付	退職	R1.9.30付
耳鼻咽喉科	野村 和弘	スポーツ整形外科	三浦 慎次郎
		脊椎外科	衛藤 俊光

## 月別紹介患者数

	紹介患者数 (人)	逆紹介患者数 (人)
令和1年5月	1,046	540
令和1年6月	1,082	602
令和1年7月	1,328	714
令和1年8月	1,111	699

## 東北労災病院 連携のつどいのご報告

本年度の連携のつどいは 7月30日(火)19時から 江陽グランドホテルで開催されました。暑い中でしたが、多くの先生方に参加を頂きましてありがとうございました。



東北労災病院 外来診療担当表(令和元年10月1日)

科/部門	曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	特殊外来・各種教室等			
							名称	曜	時間	
内科	胃腸内科	白木 学	浜田 史朗	小島 康弘	浜田 史朗	小島 康弘	院外新患は毎週月・金曜日午後(予約制)			
		齋藤 晃弘	武田 瑤平	近藤 稷	白木 学	近藤 稷				
		齋藤 紘樹		半田 朋子	清水 貴文	小野 義高				
	内視鏡	上部	大原 秀一 浜田/近藤	大原 秀一 近藤/半田	大原 秀一 浜田/齋藤(紘)	大原 秀一 近藤/半田/山川/武田				大原 秀一 浜田/齋藤(晃)/玉淵/清水
		下部	小島/清水	小島/白木/小野	白木/玉淵/武田	小島/齋藤(晃)/齋藤(紘)				白木/半田/武田
	肝臓科	小林 智夫	阿部 直司	阿部 直司	阿部 直司	阿部 直司				外来担当医
	腫瘍内科	森川 直人	丹田 滋	丹田 滋	森川 直人	丹田 滋				
	緩和ケア内科	小笠原 鉄郎11:00~12:00	小笠原 鉄郎9:00~12:00	小笠原 鉄郎11:00~12:00	小笠原 鉄郎9:00~12:00	小笠原 鉄郎11:00~12:00				
	糖尿病・代謝内科	熊谷 絵里(登録医新患)	鶴田 藍(登録医新患)	中村 麻里(登録医新患)	今野 陽介(登録医新患)	鶴田 藍(登録医新患)				
	循環器内科	田中 光昭(新患)	高橋 貴久代	宇塚 裕紀(新患)	田中 光昭(新患)	田中 光昭(新患/第1・3・5)				
		高橋 貴久代(再来)		応援医師(再来)	宇塚 裕紀(再来)	高橋 貴久代(再来)				
	高血圧内科	金野 敏	宗像 正徳	宗像(第1・3・5)・金野(第2・4) (院外新患のみ)	宗像 正徳	金野 敏				
	呼吸器内科	三浦 元彦	榊原 智博	田代 祐介	三浦 元彦	榊原 智博				喘息外来(予約制) 月 14:00~15:00
		田代 祐介	大塚 竜也	中村 優	中村 優	大塚 竜也				重症喘息外来(予約制) 木 14:00~15:00
			谷津 年保	伊藤 あゆみ	谷津 年保					禁煙外来(完全予約制) 第1・3水曜 14:00~16:00
呼吸器外科	保坂 智子				保坂 智子					
心療内科	町田 貴胤	町田 貴胤	町田 貴胤	町田 貴胤	町田 貴胤	新患は火・水曜日のみ 完全予約制				
	町田 知美	町田 知美	町田 知美	町田 知美	町田 知美					
小児科	千葉 靖	千葉 靖	高柳 玲子	高柳 玲子	千葉 靖	午後診(すべて予約制) 乳児健診(千葉明子): 7/9・23 火曜14:00~ 乳児健診(小島): 木曜14:00~ 予防接種: 火曜14:00~ 神経外来(山本): 第4水曜14:00~ 腎臓外来(千葉靖): 木曜14:00~				
	高柳 玲子	沼田 美香	沼田 美香	小島 三千代	沼田 美香					
	応援医師		—		応援医師					
外科	消化器外科	成島 陽一	成島 陽一(新患のみ)	西條 文人	徳村 弘実	成島 陽一	ヘルニア外科: 月・火・水・木 胆石外来: 月・火・水・木 胃外科: 水(受付14時まで) ストーマ外来: 火曜午後予約制			
		野村 良平		松村 直樹	赤田 昌紀	武藤 満完				
	大腸肛門外科	佐藤 馨	高橋 賢一 羽根田 祥	野村 良平	松田 泰文					
乳腺外科	本多 博	※本多 博(午後新患のみ)		千年 大勝(第1週) 吉田 清香(第2週以降)	(午前)本多 博 (午後)千年 大勝	※乳腺外科: 月・火・木・金の 午後は新患のみで予約制				
整形外科	関節	信田 進吾	小河 裕明	①信田 進吾	②小河 裕明	信田 進吾	①信田進吾 第3水曜日 午後不在 ②小河裕明 第4水曜日 午後不在			
		奥野 洋史	奥野 洋史	小河 裕明		奥野 洋史(午前のみ)				
		佐藤 諒	佐藤 雄紀(午前のみ)	佐藤 諒	佐藤 雄紀(午前のみ)					
	脊椎		日下部 隆 中村 豪		※①日下部 隆 ※②中村 豪	日下部 隆 中村 豪	※①日下部隆 第2・4水曜 午後不在 ※②中村 豪 第1・3水曜 全日不在			
			半田 恭一(午前のみ)		半田 恭一(午前のみ)	半田 恭一(午前のみ)				
脳神経外科・脳卒中科	柏原 茂樹(午前) 高橋 智子(午後)	柏原 茂樹(午前) ※長嶺 義秀 (第2・4火曜日の午後のみ)		柏原 茂樹(午前)	柏原 茂樹(午前)	※月・木・金曜の午後の受付は 14:00まで				
老年内科			佐藤 琢磨(第1・3週のみ)			第2・4・5週は心理検査のみ【完全予約制】				
皮膚科	國方 なぎさ	矢崎 緑	國方 なぎさ	國方 なぎさ	國方 なぎさ	※水曜受付10:00まで 月・火・木午後検査(予約制)				
	谷田 宗男	中嶋 夏磯	谷田 宗男	中嶋 夏磯	谷田 宗男					
泌尿器科	阿部 優子(新患)	浪間 孝重	浪間 孝重	櫻田 祐	新患担当医					
	浪間 孝重	島谷 蘭子(新患)	島谷 蘭子(新患)	島谷 蘭子(新患)	阿部 優子					
産婦人科	星合 昊	星合 昊	星合 昊	星合 昊	星合 昊	毎週水曜日のみ女性医師の担当あり (予約制)				
眼科	植松 恵(午前のみ)	植松 恵	植松 恵	植松 恵	植松 恵	※火曜・木曜 受付10時まで(手術日) ※月・水・金曜 午後検査(予約制)				
		小杉 真代	小杉 真代	小杉 真代	小杉 真代					
耳鼻咽喉科	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	渡邊 健一	手術日 月・水・金 再来予約制  舌下免疫療法: 木曜午後 (完全予約制)				
	織田 潔	織田 潔	織田 潔	織田 潔	織田 潔					
	小澤 大樹	小澤 大樹	小澤 大樹	小澤 大樹	小澤 大樹					
	鶴沼 むつ貴	鶴沼 むつ貴	鶴沼 むつ貴	鶴沼 むつ貴	鶴沼 むつ貴					
	草野 佑典	草野 佑典	草野 佑典	草野 佑典	草野 佑典					
応援医師	大山 健二	大山 健二	大山 健二	大山 健二						
リハビリ科	小松 恒弘	心リハ外来	心リハ外来	小松 恒弘	心リハ外来	新患は要電話確認				
放射線治療科	田邊 隆哉	田邊 隆哉(新患)	田邊 隆哉	田邊 隆哉	田邊 隆哉(新患)	完全予約制(要電話予約)				
リウマチ科	—	畠山 明	畠山 明(新患)	畠山 明	畠山 明	完全予約制 新患は電話で予約				
	加藤 一郎	加藤 一郎(新患)	加藤 一郎	—	加藤 一郎					
歯科	太田 宗夫	—	—	太田 宗夫	—	完全予約制				
	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲	塚田 甲					
口腔外科	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	永井 浩美	完全予約制				
	—	—	—	非常勤医師(第2・4の午後のみ)	—	完全予約制				



独立行政法人 労働者健康安全機構 東北労災病院

〒981-8563 宮城県仙台市青葉区台原4-3-21

受付時間 8:15~11:00

代表電話 022-275-1111 代表FAX 022-275-4431

地域医療連携センター

直通電話 022-275-1467 直通FAX 0120-772-061